

	各種統計資料等より （資料3参照）	市民意識調査（若者・子育て世代） （「資料4」参照）	市民意識調査（18歳以上） （「資料5」参照） ※回答者の約4割は65歳以上	各種資料より見えてくること （推察、課題）
人口	<ul style="list-style-type: none"> ■平成21（2009）年をピークに人口減少へ ■近年は、社会増ではあるが、それを上回る自然減により人口が減少している ■社会増の背景には、外国人の転入がある（日本人だけを見ると社会減） ■15～19歳では、男性は社会増、女性は社会減 ■子育て世代は社会減（就職、転勤、転職、結婚、住宅購入を機に転入出） ■転入出は名古屋市や近隣市町、海外が多い ■自然減の原因は、出生数減少と死亡数の増加 ■高齢者人口の割合が高い ■世帯数は増加傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ■学生が就職等を希望する地域（第1希望）は、名古屋市（44）、犬山市（18）、愛知県（16）、東京都（10）の順に多い。 ■犬山市への居住年数10年未満の人に聞いた転入のきっかけは、仕事、結婚、住宅の順に多い。犬山市を選んだ理由は通勤・通学の便（36.1%）、実家がある（21.8%）、市外への交通の便（17.3%）、住宅・家賃が安い（17.3%）。 ■「いずれは結婚したい」を含め、未婚の人のうち、結婚したい人は65.7%、分からない26.6%、結婚したくない7.8%。 ■将来、子どもが欲しいと思っている人は74.7%。欲しいと思わない人は25.3%。 	<ul style="list-style-type: none"> ■住みやすい、まあまあ住みやすいまちだと思う人が89.0%。住み続けたい、住み続けたいが他の場所に移るかもしれない、市内の他の場所に移りたい、を合わせると、93.8%。 ■移住施策に積極的に取り組んでほしいと回答した人が82.8%。 ■住み続けたいと思う主な理由は、緑が多い（40.7%）、災害が少ない（43.2%）、愛着（38.5%）。 ■住み続けたいと思わない主な理由は、子育てがしにくい（45.5%）、道路・下水道等が整備されていない（38.2%）、子どもの教育環境がよくない（30.9%）、医療・福祉サービスが充実していない（27.3%）。 	<ul style="list-style-type: none"> ■転出理由は、就職先を選ぶ際に「自分の興味」を優先した結果、市外で就職することがきっかけと考えられる。たとえ就職時は市内から通っていても、結婚や住宅購入を機に、職場の近くを選択しているのではないか。男性の第1希望である情報通信業、女性の第1希望のサービス業が犬山市内（あるいは近隣も含めて）には少ない。 ■若い男性の転入は、遠方から市内（あるいは近隣も含めて）への就職が主な理由と考えられる。また、市内では製造業で働く人が多いことから、外国人技能実習生の受入れが外国人の社会増の一つの理由だと考えられる。 ■婚姻率は減少傾向。結婚したい若者は65.7%だが、分からないと答えた人が26.6%。分からない答えた人に、いかに結婚に対して前向きに考えてもらうか。 ■子どもがいない若者のうち、将来、子どもが欲しいと思っている人は74.7%。この人たちの希望をいかに叶えるか。 ■統計資料では、生活利便性は確保されているように見えるが、商業施設の充実を望む声は多い。消費は市外へ流出しており、市内の店と市民が望むお店との間にミスマッチが生じている。 ■市内で働く市民が少ないが、分譲住宅等の供給が少ないからではないか。犬山市内の企業に就職した人が、家を買おうとしたときに犬山市内に物件がなく、近隣市町に住んでしまうことが原因だと考えられる。
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ■分譲住宅等の供給が近隣都市と比較して少ない ■最近、3～5階建の共同住宅に住む人が減った。 ■市内の住宅地平均地価は県内周辺都市の中で最も低いものの、犬山駅周辺は高い ■生活利便性は確保され、市街化区域内では災害リスクエリアは少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ■「住み続けるのに必要なこと」で一番多いのは、「商業施設を増やすこと（52.2%）」 ■「力をいれて欲しい取り組み」で一番多いのは、「買い物などの日常生活利便性の向上（58.8%）」 ■住みたい中古物件は多い順位に、リノベーション済（49.8%）、駅近（38.8%）、落ち着いた住環境（26.2%）。一方で中古物件には住みたくないが13.0%。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市内での買い物する人は76.7%。しかし、お店の雰囲気や交流する場としての魅力があると回答した人は31.5%。 ■住環境が整備されたまちだと思いますか、という設問に対しては、そう思う（5.5%）、ややそう思う（35.7%）、ややそう思わない（26.2%）そう思わない（16.5%）となっており、そう思わない人の割合の方が高い。 	
経済	<ul style="list-style-type: none"> ■製造業が地域産業の核となっている ■農業（参考） 主要農産物は米 農業者の減少と高齢化が進んでいる ■製造業 順調に推移しているが、まだコロナの影響が分からない ■商業（小売業） 消費が市外に流出している ■近隣市と比べると市内で働く市民は少ない ■市内で働く人の性比は男性に偏っている 	<ul style="list-style-type: none"> ■学生が就職等を希望する業種はサービス業、教育、学習支援業、医療福祉業の順に多い。男性では、情報通信業、製造業、サービス業の順に、女性では、サービス業、医療・福祉業、教育、学習支援業の順に多くなっている。 ■学生が思う就職先を決める際に重要だと思うことは、多い順に、自分が興味のある仕事、安定、給料。 	<ul style="list-style-type: none"> ■犬山市をどんなまちだと思うかという設問に、観光都市と回答した人は72.6%。田園都市は13.1%、工業都市は3.7%。 ■地域の農産物を意識して食べている人は31.4%。 ■新型コロナウイルス感染症の流行により、市内での買い物をする頻度は、増えた（14.2%）、変わらない（66.4%）、減った（19.4%）。しかし、消費額は増えた（21.4%）、変わらない（65.9%）、減った（12.6%）。 	